
[ばぐちーオリ主転生モノ] ねぎてん！

metro_polytank

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

「ばぐちーオリ主転生モノ」 ねぎてん！

【Nコード】

N8068Y

【作者名】

metro|polytank

【あらすじ】

チート転生物。ありがちな”他作品キャラの能力ちようだい”はないものの、莫大な力を振るえるオリ主はどこに行き着くのか。ニコポ 撫でポ ハーレムは無し。初めにゼロ魔。メインはネギま！

現在魔法世界を浸食中。最強変態ショタ神カラバが行く〜
時々思うんだけどさ、ラノベ的に一線を越えるとアウトだけど、ある一点を回り込む感じに進むとギリギリセーフセフ…なのか？

一話一話は短めです。

プロローグ

今はまだ知らない。僕はいずれ幾多の世界をめぐり「最古の聖者」

「止まらない者」と呼ばれることを…

僕は白い空間に立っている…

女神…

「おめでとうございます。貴方には『神の暇つぶしの駒』としてある世界に転生してもらいます。非常に危険な世界であることと、報酬の先払いとして『不老の肉体』を与えます。そもそも転生者機構とは…」

…えっ？

女神…

「…ということですから、貴方に三つの餞別を与えましょう。まずこの本は『術式編纂機』といい、貴方の心臓足りうるものです。次に『無名の杖』…今はまだ只の棒ですがいずれ貴方の宝になるものです。最後に『女神特製ペンダント』を授けましょう。これは個人的なサービスです。『永遠に増え続ける力』を約束します。…ではいってらっしゃい。」

足元が消え、こうして僕は落とされた。

以下アイテム説明

○術式編纂機…立派な本。オリジナルで魔法を作るもの。見た魔法やイメージを記録し最適化・改良し、同時に詠唱も大幅に短縮可能。もし別の世界であれば『ロストギア相当の高性能なデバイス』。魔術的意味をもった陣や文様も作成可能であり、これを用いれば腕輪等に変形可能。

○無名の杖…現在は『並みの魔法発動体』。長さは1メートルオーバーの金属製。割と軽い。

○ペンダント…ペリドット。布製の紐の長さは調節可能。

主人公説明

名前…カラバ サリーナス

性別…服装次第では判別不能な 一応男。

印象…目立つのは髪。長髪で薄いまだら模様。模様、色合いは時折変わる。

猫のようにいたずらっぽい目。ひよろ長な体型。あと眼鏡。

初めはゼロ魔（1週目）をはさみ、ネギま（大昔）に移る予定！

ゼロ魔編 1-1

貴族と平民という構造から：多分ここはゼロ魔の世界かな。幼児の状態で土の上で倒れていた僕はとても上品な女性に拾われました。幸い所持品も回収しておいてくれたようで何よりです。

彼女は貴族の夫婦で、なかなか子供が生まれず神に子宝を願っていたらしい。

名前を頂きました。

「カラバ・セレスタン・ル・サリーナス・ド・シャンリット」
これが僕の名前です。

――――

父 エリック

「カラバよ。少しばかり早い気もするが魔法を教えたいと思う。」

母 クロエ

「早すぎるのではないですか？」

待ちに待ったこの一言。カラバ推定4歳。

「父上。習いたいです。」

「そう言うと思っていたわ。魔法の教師も既に探しておいた。存分に学びなさい。早速明日からだ。」

「はたしてわが子に才能はあるのか。」

「きっとありますわ。血はつながっていかなくとも私たちの子供ですもの。」

「その杖は大き過ぎないか？」

「これから鍛えますから、近いうちに使いこなせるようになります。」

」

――――

翌日朝。

「初めましてお坊ちゃま。アンサリヴァンとお呼び下され。」

豊かな白髪をもつ老人。彼が僕の先生となる。

「杖との契約はできてますかな？」

「多分。これです。」

金属製の長杖を見せる。毎日のように杖を握っていたので、杖とのリンクは無意識のうちにできていた。

「ふむ。出来てますのう。では、火の適正から見ていきますぞ。

火をイメージして下され。杖に火を灯すのじゃ。」

杖を正面に構え：「火よ。」

杖の先から火焰が迸る！！ 慌てて杖を落とす。

先生はしばし沈黙し、

「次は水じゃ。なるべく大きな水球をイメージするのじゃ。」

「凝縮せよ！」

杖の先端にサッカーボール並みの水球が生成される。集中が途切れ水球は破裂する。

「今度は風じゃ。風をイメージするんじゃ。」

「吹き飛ばせ！」

突風が吹き荒れ砂が目に入る。痛い。

「荒っぽいのう。最後に土じゃ。足元に『鍊金』と唱えるのじゃ。」

「鍊金！」

突如半径5マイルが金色に！先生は判別魔法で調べる…

「初めてにしてはすごいのう。黄銅じゃわい。」

「そろそろ昼じゃな。続きは明日からじゃ。」

――――

結果。

水は少々見劣りするものの、全体的に高い適正を持っていた。

父と母はとても喜んでくれたのだった。

――――

さらに翌日。

「今日はコモンスペルじゃ。」

ライトは小さな太陽もかくやという超出力。ブレイドは長杖を槍の持ち方で持ち手の先からが”当たり判定”で先端から30 سانت程の白刃だった。

疲れたので休憩をはさむ。

出力を練りに練った渾身のマジックアローはこれまた白色で、200マイル先の岩に着弾し、岩は粉々に。

「ふむ。魔力容量がすごいのう。ブレイドが白いのは全属性に適性が有るからかの。問題は制御じゃな。」

こうして2日目は終了した。

ゼロ魔編 1-2 (前書き)

超！展！開！

ゼロ魔編 1-2

魔法を習い始めて先生から多くを学びとった。それからというもの1人で修業に明け暮れた。

この世界のメイジたちの言う魔法とは結果のイメージと自身の”強い感情”から作りだすものらしい。この強い感情を精神力という。魔法を放って疲れるのは集中時に力みすぎただけなのだろう。しいには気絶するというメカニズム。よく分からないが、使えるのだから良いだろう。とりあえずどうでもいい話。

一方、周囲の精霊を使役するのが先住魔法といわれ、メイジには蛇蝎のごとく嫌われる。主な愛好者がエルフだからか？先住魔法には予め契約する必要があるが、制約も多い。この工程を省略できないか？

双方のいいところどり、周囲の精霊を強制的に使役し、人の身でスクエアがはだして逃げ出す（といいね）大火力の術を行使する。これを精霊魔法と呼ぶ。自身の魔法はこれに当たる。

魔法が出回って6千年と聞くと、進歩は無かったのか。

僕の術式編纂機は魔術行使にあたり、詠唱とイメージの大幅な肩代わりをしてくれる。最初はフルで詠唱が必要だけでも、しばらくすると無詠唱なしワンフレーズでOK。新しい術の提案もできる。黒い本の形をしていて開く必要はない。最近触れるごとに皮膚に張り付いてその内とれなくなりそうで怖い。

ペンダントの魔力増加はなかなかうれしい。毎日大幅に増えている。

キンクリー！！

————————

誰もが近寄らない、薄暗い森。

：ところで父母は止めたりしないのだろうか？僕には何にも言わないのだが。僕もう10歳。

努力？友情？勝利？：そんなものは無かったぜ！努力はさておき、お忍びで屋敷を抜け出し街で年下の少女たちに片っ端から声をかけたがことごとく避けられた。その代わり街のおっちゃん達に大人気。まだ戦闘はないので勝ちもくそもないわ。

正面に杖を構える。

「アロー、2048爆発連弾！」

赤く光る矢が着弾点を燃やし焦がす。緑の矢は突風に散逸した。石と氷の矢は棒状のまま刺さり破裂する。比較的太い木が初弾にギリギリ持ちこたえ、次弾で弾け飛ぶ！右手に長杖、左手に本。

「ロッドへの魔力急速充填・・・」

自前の魔力はまだそれ程多くない。

周囲の魔力・・・自然の魔力と先ほどばら撒いた自分の魔力をロッドに注ぎ込む。ロッドの先が白く輝く。

「アルテミス1e4」

草木が枯れ、気持ち1万発分溜まったあたりで打ち出した。発生した熱量で局所的に空気が爆発的に膨張し、雷鳴が発生。盛大に土煙りを巻き上げ、青白い光線が樹木の上を掠め、晴れ渡る空に溶けていった。

そろそろ昼。屋敷に戻ろう。

チートだけあって、うん。なかなかの超出力！

――――

今日は曇りで雨が降りそう。自室で作業を行う。

？マジックチャージャー（魔石）作成

庭で適当な石を拾う。直径にして5 سانت程の灰色の石。

魔力を込める。魔術行使で杖に注ぎ込む感じ。少し込めただけで直ぐに砕けた…。窓から捨てる。

材料が悪かった。つぎは錬金で金属や宝石で試す。ん？金の錬金出来たのかって？まあチートですから。

アルミや鉄は使えなかった。金銀銅は意外と良かった…幻想金属はどこかにないものか。

宝石の種類はよく分からない。とりあえず低温型石英（透明）とダイヤモンド（透明）。どちらも大量に魔力をため込むことが出来た。だが取り出し方が判らない。とりあえず作りやすかった水晶球を「魔石1型」と命名。

？幻想金属への追及

金属と宝石を比較すると蓄積量では格段に宝石の方が上。また金属は瞬間でより多くの魔力を閉じ込められるものの、直ぐに散逸することが分かった。

以前杖に魔力を大量に注ぎ込んだ。これにヒントは無いか？

ディテクトマジックで杖自体を調べる。親指の伸ばした爪の先を臨時の杖と見なし、何とか使えた。1メートルオーバーのシンプルな口ッド。

広がった液溜の端に火が付いた。液面を伝って自身に燃え移る！

『赤豆腐は ひだね を しゃしゅつした！』

『カラバ は ほのおにつつまれた！』

もんどり打ちながら水魔法を紡ぐ。

『カラバ は もんどりうっている！』

『赤豆腐 は ひだね を しゃしゅつした！ しかし こうかは
なかった！』

『カラバ の しょうかまほう しかし こうかはなかった！』
『赤豆腐 は なかまを よんでいる！』

ナパームは油性だから水では落とせない。冷やしてもナパームに添付されたガソリンの発火点は－40℃。なかなか消えない！。体中が痛い！

『カラバ は どしゃ を しょうかんした！』

『カラバ の ほのおがきえた！』

『カラバ の かいふくまほう』

土砂に隠れ、水魔法で少し回復したあたりで、見失ったのか赤い四角は去って行った。

屋敷に急ぐ。屋敷は既に崩れていた。

屋敷の皆は逃げているだろうか：

すでに日は落ちている。炎の赤が痛々しい。

物陰からぞろぞろと何か出てくる。白いゴーレムに包囲された。焼け跡から黒くて大きなゴーレムが現れた！一部が返り血で赤く染まっている。

『白豆腐 A が あらわれた！』
『白豆腐 B が あらわれた！』
『白豆腐 C が あらわれた！』
『重装豆腐 が あらわれた！』

「アロー！」

『白豆腐 A は たいはした！』
『白豆腐 D が あらわれた！』
『白豆腐 B の 2 連装 9 ミリサブマシンガン が ひをふいた！』
『白豆腐 C の 2 連装 9 ミリサブマシンガン が ひをふいた！』
『重装豆腐 の だいしゅつりよくプラズマブラスト！』

回復魔法が追いつかない。敵は散開して居るので一体を破壊する間に他のが攻撃してくる！

白ゴーレムの防御は紙なのだが数が多いしその武器はおかしいだろう！

『カラバ の アルテミス！』

『重装豆腐 は 1 の ダメージ！』

『重装豆腐 の だいしゅつりよくプラズマブラスト が はそんな！』

『重装豆腐 は てったいした！』

『白豆腐 E が あらわれた！』

『白豆腐 B の 2 連装 9 ……』

…

…

…

グチャグチャと抉られ、プラズマに焼かれる。もう駄目だ…

『カラバに しんこなエラーが はっせいした』
『カラバ一行 は ぜんめつした!』

…我が生涯一片の悔いなし!!

<女神『コンティニューする?』

Yes! Yes! Yes!...

|||||NOTE1|||||

○豆腐の兵隊

振興の武装勢力。シャンリット郊外に彼らは流れてきた。目的は新装備の実験。リーダーは物量系の転生者。兵力の総数はまだ少ないのでゲリラ戦によるヒット&アウェイ戦法と弱者への蹂躪が特徴。白豆腐の装甲は相変わらずペライ。重装豆腐の装甲は「全面削り出しオリハルコン」に「抗魔スペル」「固定化」の重ねがけ。間違っても序盤に出現する敵ではない(笑)

近隣のガリア騎士がやって来た頃には既に撤退した後だった。

|||||NOTE2|||||

○「汎用」マジックアロー／マジックミサイルの改造

編纂機を用いて詠唱を極力短縮したい。

魔力や精霊を掻き集め、矢に成型し、射出する。

—<M|arrow…「魔法属性」アロー」, 消費する魔力, 追加属性1, 追加属性2, …」;

魔法属性…「火, 風, 水, 氷, 土」追加「無, 光, 闇, 雷」

消費する魔力…「int」

追加属性…「追尾, 連弾, 集束」追加「爆発, 麻痺, 浸食, ガード無視, 石化, 貫通, 非殺傷, etc」

魔法属性はこの世界では4属性のみとされる。世界の制約上追加

の属性は習得不可。また水と氷は同一視されている。光はライトがあるものの、光属性も存在しない。指定なしの場合、基本として自動的に行使用者が得意とされる単一属性が指定される。多属性が混合する場合もあり、この場合相殺する属性をしっかりと分離する必要がある。

消費する精神力―（魔力）は未指定ならば1発分。

追加属性は複数指定可能。未指定で消費魔力分の同時攻撃。

○超集束型マジックアロー／ミサイル 「アルテミス」

―＜Artemis―”アルテミス”，消費する魔力」；

規格外な出力の魔法矢。追尾性は弱いものの、巨大な停止―低速目標への使い勝手は非常によろしい。

魔力消費のオーダーは最低4。ちなみに「1e4」とは 1×10^4 のこと。

ゼロ魔編 1-2 (後書き)

敵さんはもう片方のオリキャラ。向こうの続きはどうするか…

次回は敵サイドとインターバル！女神様に迫ります（笑）

インターバル（前書き）

件の「彼」の話は無かったことに。実は二人とも彼女の管轄だった。他の神は未定。以降、時々R—15。

インターバル

僕は最初の場所に戻っていた。正面に女神。

――――

女神…

「残念でしたね。スペル回収率1割未満！。直前の相手が相手ですからしょうがないですが。ぷぷ。」

僕…「あの世界はその後どうなったのですか？」

女神…

「はい。”彼”の独壇場で歴史を積み上げ、ある時点で何事もなかったかのように世界は最初に戻ります。元々数十～数百年周期で作り直される”複製世界”ですから。修業用に転生者をこう言った場所に送るわけですが、運が悪いと今回のようになります。一周回るときると全転生者は排除され、また初めに戻ります。あ、排除された方々はちゃんと回収されますから。基本的には。」

僕…「世界を作り直すとか意味が分からないのですが。」

女神…「心では理解できているでしょうに。深く考える必要はありませんよ。それより…」

|||||一瞬、自分の意識に空白が発生した|||||

SIDE…煩惱少年カラバ

女神―以下彼女と呼ぶ― 今まで意識していなかった。

彼女の軽やかな鈴の転がるような声：鳴かせたい。

彼女のくりつとした碧眼：見足りない。

彼女の白磁の絹肌：触りたくてたまらない。

彼女の緩やかにウエーブした栗毛：舐めたい。

彼女のゆったりとした服から零れる彼女の丸みを帯びたライン：組み敷きたい！

彼女から漂う熟れた果物のような匂いが深いところを刺激する…もう我慢できない！

：彼女が膝立ちで抱きしめ、たわわな胸が頭に乗る

「フッフー、フツ：フンハッ！フンハッ！フンハッ！」

心臓がバクバクと痛い。

：彼女はズボンの中にひんやりとした手を滑り込ませて急所を握りしめる

「ゼヒューゼヒュー…」

「め！ まくだ、だめよっ！」

「私の言うこと聞いてくれる？」

Yes! Yes! Yes! :

「じゃあ：また出直しておいでね？ そうしたらシテあげる」

Yes! Ye……あれ？

彼女はもう数歩離れているのに僕は気づかなかった。

当然、足元が黒い穴に埋もれていたことにも僕は気づかなかった。

「行先は”停滞世界” よう。今度こそ殺されはしないからもうちょっと強くなつてね」

これまた当然、その後にはんにゃんすることは無かった。

「何を」とは言っていなかったし…。

…オウフ！

|||||一瞬、自分の意識に空白が発生した|||||

S I D E…少年カラバ

…なぜ勃起しているのか分からない。なぜズボンの中が濡れて匂っているのか分からない。

ゼロ魔世界からここに帰って…あれ？（体感）時間はたっていないのに物凄く精神を摩耗したような？

それに自分の根本が一瞬で書き変わった…？うーむ…。

女神…

「では、これからネギま世界に行ってらっしゃい！」

|| || || || ||少年のあずかり知らぬこと|| || || || ||

S I D E…女神

彼が豆腐の角に潰されて戻ってきた（笑）。

面白い事を思いついた。坊やに「アレ」を埋めることにしたわ。

『知性の芽』『痴性の芽』…これは2つで対になるアイテム。前者は「ぬこ」等の人間に思考が追いつかない、または人間とコンタクトするのが困難な転生者に与えるもの。埋め込む転生するのが人間だけだと誰が決めたの？ 後者は一時的に煩惱塗れにしたりと、ちよ…つとばかり精神をいじるの。暫らくたったら沈静化するけどあくまでも待機状態なだけね。前者は品薄で困ってるんだけど後者は腐るほど余ってるのよね（笑）。

ついでに停滞世界に坊やの精神だけ叩き込んだ。（転生者基準で）強くなって帰ってくるはず。

ポケットに入れた「アカシックシード」に気づいてくれるかしら？

— — — — — New Words!

○複製世界…基本世界から派生した無数の複製品。転生者達の主戦場。

基本世界（オリジナルの作品）への干渉は慣習上禁止されている。

○停滞世界…泡沫^{うたかた}の世界。数の上では「世界」の大多数を占める。時間の概念に欠陥があり、空間の”欠け”もひどい。例えるならば、一枚の写真。それだけの世界。時間の概念の欠陥が解消されると時間が動き始め、空間の不整合により消滅する。

○アカシックシード…一見只の「豆」。「アカシックレコード」へのリンクを確立させるもの。人の身では莫大な情報に脳と魂が耐えきれず、最悪肉体が破裂する。精々が限定的なリンクを行い、魔道具（宝具級）のレシピⅡ設計書を入手したり、ちょっとした未来予測に役立てる程度。それでも精神汚染対策の特製防壁を展開する必要はある。※くれぐれも迂闊に扱わないこと！

インターバル（後書き）

連投。

インターバル 2 　　く停滞少年く（前書き）

くそこは停滞した箱庭の世界だったく

インターバル 2 〈停滞少年〉

「固有結界」とか、「型月」臭が香ばしい。
ついでに5億年ボタンとか。

――――

ふんは！ふんはっ！…おや？

ふと、我に返る。この間100年。
ゆっくりと砂上に胡坐をかき、夕日を漠然と眺める。

カキワリの空。注視すれば雲はそこに張り付いたまま形を変えることは無い。夕日も沈まず。

ただ風景が在るだけの孤独な世界。体感時間は刻一刻と過ぎているものの、世界の時間は存在しない。

正面は紅い海原。横は海岸線のカキワリ。後ろは森のカキワリ。これは背景であり実体としてそこには「何もない」！本能的な恐怖で触れる気さえ起きない。

所持品の確認！

本（術式編纂機）、杖、魔石（粉々に割れている）、アカシックシード豆。ペンダント。それと今着ているのは簡素な服。

女神..

「やっと正氣に戻りましたか。貴方にはここで固有結界・必殺技の習得、スキルの向上を行ってもらいますね。その暁には自力で戻ってこれようになります。それにはアカシックレコードとのリンクを渡すことが前提ですから、カギとなる豆を有効に使ってください。

では。」

――――

まだ豆を使う気にはなれない。

術式の引き出しを増やすべく、新しい技を探す。

――普通の技――

○「ブリット」

超高温セラミック片を生成し派手に飛ばしまくる。ショットガンでマシンガン（笑）

○「ソフトーブリット」

いわゆる非殺傷。特に安全な無力化術。

○「転べ」

只転ばすのではなく、相手の足を掴んで逆さ吊に引きずりまわす。

出力を上げると魔力が切れるまで空高く引きずり上げられる鬼畜重力魔法。

――強力な技――

○「マンダラシールド」

強固な多層防壁。対物対魔、精神汚染……あらゆる攻撃をシャットアウト。無数の多種多様な防壁がそれぞれ独立して動く。”星割りの一撃”には負けるが、そこらの転生者の一群には負けるはずがない。

○「投影モドキ」

錬金で金属塊を生成。念力で浮かべつつ加熱し別の金属塊で叩き成型をくり返す。剣型の金属塊で水面を叩く。みなも何度も繰り返すうちに宝具無しの「無限の剣製」モドキになった……なんか空しい。

宝具無しなら汎用性で地味にこっちの方が優れている件。

○「オリゴーバインド」

拘束術式の考案。エーテルで生成した鎖と完全に物質化した粘着物を併用する。自身にはそのつもりはないが莫大な魔力で編んだ鎖であるから打破することは困難。

「魔力消去」対策に完全物質化したバネ状の粘着樹脂を生成する。太いバネを振じて細くするように対象を締め上げる。かなり堅牢だが、ネバネバが対象の動きを止める。

更に「魔力強制吸い上げ術式」「衰弱」、場合によっては「強酸」なども併用可能。

威力から殺傷用。

鎖と粘着物は地面にしっかりと固定されているか、無限延の距離、空中から無数に纏わりつく感じ。

○「ソフトーバインド」

肉体への安全性最優先な拘束術式。女性には優しく（笑）。むっちゃエロっぽい技。

○「ゴーレム」

ゴーレムの一斉生成。グニャグニャウネウネと蠢くゴーレムの群れ。キモイの一言。+αで騎士人形等を生成可能。

：以上一例でした。

☆此処までで5千年

精神が狂いかけるごとに「初期化」される。腹もすかず眠くもならぬ生活を続ける：

――――

豆を暫らく口に含む。環境的に育てようがない以上食べるしかない

のでは。

：むむ。香ばしい風味が病みつきになりそう。チャンネルが開かれた。アカシックなんちゃらに近づく為精神を集中させる。まだまだ道は長い。

その一端にリンクを確立させかける度に頭が割れ中身を撒き散らし、そして戻る。

☆此処までで2億年

――――

そして術式編纂機と自身が融合する。更には停滞世界その物と融合する感覚に囚われた。

ついに私はアカシックレコードとの限定的なリンクを確立した。

☆此処までで十億年。彼はもはや下級神の一根に相当する。

ついに世界そのものと融け合った。

データ群をひとしきり堪能した後、リンクを閉じる。

☆宝具級魔道具の創造が可能になった。

――――

尚、完全な過去未来の観測は完全なリンクが必要であり、完全なリンクは宇宙と一体化すること。いくら何でもそれは無理であろう。

☆無限に回帰を繰り返す世界Ⅱ＜固有結界『原点再帰』を習得した☆杖がオーバーEX級宝具化した

☆いつの間にか正式に自身が「神」の仲間入りを果たした

此処まで少なくとも数十億年。元の軸座標に回帰する。

「んっふ。女神様あゝただ今！戻りまっする！」

――――

「ふんはっ！ふんはっ！ふんはっ！…」

「ひっ！こ…来ないで。ただの冗談なのよ！」

自身を掻き抱く女神様。胸が強調される。うほ。

十歳のカラダとは言え、超高レベルの魔力を放つ。女神には人格が消えるレベルの著しい苦痛を強いるだろう。避けらねぬ貞操の危機を覚える女神様。

―僕は油断した―

パチンツと指を鳴らす女神様

「精神を漂白せよ！」

…場面は戻る！

|||||New word!!

○純魔力塊／エーテル／完全物質体

純魔力塊は重さを持たないエネルギーの塊。エーテル体は一部が物質で重さを持つ。核は魔力で構成される。完全物質体は核までが物質化を果たしており、魔力消去でも破壊不可。

さり気にゼロ魔魔法の錬金は完全物質体。

インターバル 2 〔停滞少年〕（後書き）

連投。次回は設定。

オリ主設定（ネギま直前）（前書き）

こんな感じ。

オリ主設定（ネギま直前）

オリキャラの各種設定。

注！型月以外の世界では、魔法と魔術は同様のもので区別は無し。

○僕…カラバ・セレスタン・ル・サリーナス・ド・シャンリット
外見

年齢…都合10歳

服装…デフォルト…シヨタ貴族然としたマント姿

ネギま世界…基本は旅装。緑。

印象…髪…今は薄い黄緑く抹茶色までのまだら模様。

エヴァと居る間は金く灰のまだら

特に意味は無い。

他…好奇心旺盛でいたずらっぽい目と口元

肉体…「神」

魔力…取りあえず「チート級」とでも

他…キラキラ度アップ。時折何かの判定で＋補正がかかる。

内面

原作知識…精々設定ぐらい（勘がいいとも言う）。

重要な局面では女神様のアナウンス

前世… 普通の人だった筈。

所持スキル

不老不死 …シヨタ神。

変身能力 …一応変身できる。竜族風味とか。

肉体”魔”改造 …＞限定リンクくより可能になったスキル。変

身能力はその一端。

普段は物凄く肉体そのものの装甲が固いとい

う恩恵。

固有結界 ..>原点再帰<相手の精神に著しいダメージを与える。

魔（神）力放出 ..解放時のみ。超EX級

魔道具創造 ..宝具すらも創造可能

神性 ..半神半人どころでは無かったり。

隠れスキル

痴性の芽 ..順調に芽吹いているもよう。現在>待機状態<。

約束された童帝..R-18イベントが超困難。星の一生レベルを童貞で過ごしたため。

限定リンク ..かつてアカシックレコードと一部繋がったため。これによって膨大な魔術知識を得た。

宝具..無銘 ..槍というには華奢で杖というにはごつ過ぎる。

<<<神秘性に異常あり

<<<出力の安定性に問題あり

<<<因果性に異常あり

○女神..メガミサマ

外見..ウェーブのかかった栗毛に碧眼。年上キャラ的なエロさ。

内面..サド。刺激を求めているが、直接世界に関わることはできない。時間軸がアレだが、殆ど1人きりで過ごしている。ちなみに処女。

文才のない作者にこれらの設定を生かせることはできるのか!?

☆強大（笑）敵オリ主参戦フラグがON！

オリ主設定（ネギま直前）（後書き）

設定の穴、ムラがあってもうるさく言わないでほしいんだ。

エヴァに遭遇　く行動と共に。　（前書き）

そろそろ忙しい時期。更新したらそれは現実逃避。
ギャグストーリーを目指したい。お約束の賞金ネタは魔法世界編にて。

エヴァに遭遇　く行動を共に。

カラバの行動は気紛れ。暴走は滅多になし。

教会…あくまでも架空の組織だから牧師、神父、司祭の区別は気にしない。

フード…いかにも魔法使いです。詳細が描写されないのはみんな似たり寄ったりというモブの宿命。

旧世界ではこの時代まだ教会との仲は険悪。だって”魔法”使いだよ。そのため、遭遇確率は結構低い。賞金を出しているのは旧／新世界の双方ではあるものの、旧世界では教会。いざ捕まえても状況説明で自分が魔法使いだとばらす事になる。ので、わざわざ追ってくる魔法使いは少ない。

だとすると果たして遭遇する魔法使いの多くはどこからくるのか？エヴァは地球産だと思ってたけれど？旧世界からはるばる新世界までエヴァの噂が伝わりメガロあたりが賞金首にしたのか？うゝむ。適当な理由を付けて生体サンプルが欲しかったとか？

――――

金ロリ「だから貴方は何者なんですか！」

カラバ「だから人間だと言ってるんだよ！この金ロリが！」

金ロリ「あれだけ派手に人ふっ飛ばして！ホントに人間ですか？あと金ロリ言うな！」

魔法使い達に放った魔法を思い出す。

半円形状に包囲する魔法使いたちが口々に詠唱を始める。

無数の光芒が少年に突き刺さる。しかし少年は無傷。

ジワリと空中から銀色の長杖が”滲出し”、「反撃さ。よけてみな？」杖先を男たちに向けて腰だめに構える。

赤熱した石片の嵐が吹き荒れた。

杖を砕き腕を挟み、足を穿つ。

腰を砕き障壁ごと胴を穿ち肉を焼く。

撃ち漏らしは足元から生えた鎖と触手？に絡まれあらゆる攻撃を受けた。

運が良いのか悪いのか、しぶとく回避に成功したフードは「反撃は認めない。」細いビームで斜めに切り落とされる。

元凶の子供に疲れた様子は微塵もなし。「準備体操にすらならんな」などと嘯く。

――ブリーフィング――

女神..「原作開始約600年前の旧世界にセットしたわ。金髪ロリからさほど遠くない場所よ。」

僕..「他に何かないんです？」

女神..「特にないわ。んじゃ元気でね。」

..大気圏外だけど、着弾地点は平面座標上ではあってるのよね。

僕..「はい。ではそちらこそお元気で。」

かわされた会話はそれだけだったりする。

――

それはまさに『彗星が落ちた』と言えよう：

現場に居合わせた息の荒い金髪幼女と息の荒い土に塗れた男たちの

間に流れる空気は白けていた。

土煙りを巻き上げ、土砂と共に張りつめた空気を吹き飛ばした何か
(・・・) が立っている。

煙が消えるとそこに子供が立っていた。年は10歳か。金と灰の斑
模様な頭髮は背中あたりまで伸び、緑のボンチヨ旅装のボロを纏っている。

ちんちくりんだが、漏れ出す魔力量から明らかに人間ではない。

金ロリ VS 緑ショタ VS ローブマン ??? 達

見た目、大人たちが子供二人を包囲している感じ。

??? 「そこのガキィ! : 何者だ!」

カラバ 「通りすがりの子供です。あんたらは何?」

??? 「正義の魔法使いだ! ええい! その吸血鬼共々お縄につけ
い!」

カラバ 「子供を襲う変態共めえ、成敗してくれるう」

：うん。大体こんな感じ。

——— そんなこんなで ———

カラバ… 「エヴァンジェリン。これまで通り勝手にでもついてくぞ。」

エヴァ… 「あなたとなら しばらくは退屈しないで済みそうです。」

☆エヴァのパーティに加わりました! (今2名)

エヴァ…

「それにしてもどういう体をしているんです? その斑髪とか舐めて
るんですきゃ!」

カラバ…

「髪は体質みたいなもの。正体は元人間で年は推定数十億歳の神モドキとだけ言っておく。」

エヴァ…

「訳が分らん。」

カラバ…

「神云々は聞き流していい。取りあえず不思議な奴とだけ。」

毎日のように魔法使い達は襲撃をかけてくる。最初の頃は教会からの手勢もあつたが：

— — — — —

当時、教会の腐敗はひどくその権威は堕ちていた。

一行はなぜかよく移動中にいゝタイミングで遭遇するのだ。

その都度エセ司祭以下肥え太った連中を蹴り倒しては資産を付近の村々に還元し、建物は丸ごと焼き払った。暴行を受けていた女性には心身を癒して回った。

ごく稀に信心深い老夫婦が運営する教会に立ち寄った際には商売？繁盛の呪いをかけておく。

彼らの活躍は「双子の聖者」として児童の絵本として語り継がれることになる。

— — — — —

今では歓待を受けるのだ。

この調子で100年後：

エヴァ…「お前は魔法世界に行くのか？」

カラバ…「ああ。変わり映えのしない毎日はずまらない。と、その

前に、世界樹とやらを見てみたいから極東のニホンに寄っていきたい。」

エヴァ…「それまで付いて行くぞ。」

ルートはどうするかって?…一直線に決まっている。

スタート地点…今で言うバルト。

ゴール地点…今で言うマホラ・ジャパン。

――――

エヴァ…「ギイイヤアアアアア!!」

今で言うロシア。現代人ならばロケットのスノーモービル版と形容するはず。

赤い彗星が雪を巻き上げ（今は厳冬）突貫する。

陸路? 海路? めんどくさい事は考えなくていいのだ。

エヴァを自分の前に魔力の粘着する縄で縛り付ける。「ひぎい!」
マンダラシールドを念入りに展開。

魔力を重力に転換し運動量を増やす…推定500トン。

沈みこまない様に注意しつつ念力で加速を開始した。

邪魔する獣は撥ね飛ばし「ひいっ!」更に加速する。

途中無名の小さな山脈を横断?する。運悪く山脈の向きと進路が重蹂躞範囲なっていた為に今では丘が続いている。なお、山の深部にあるはずの鉱脈が露出しており、後に地球科学者の間で議論を呼ぶことになる。

更に加速する。障壁に発生する摩擦熱で橙色に輝き始めた。この時点でエヴァは静かになっていた。
この辺りが最高速度。一応のね。

さて、今は即席ですんごい筏作った船の上太平洋上で途方に暮れている。方向がずれていたようだ。エヴァが面白くなっている。顔面唾液塗れで吐瀉物の酸っぱい臭い。下腹部もry

ぐったり・ピクピク痙攣するエヴァをペシペシと頬を叩いて起こす。

その前に。女神に方向を聞き、正しい方位と距離を聞く。

では。もう一度。

日本に上陸し大きい木を目指す。

…こうして麻帆良に到着した一行だった。

SIDE…エヴァンジェリン

カラバが障壁を張る。色々とおかしいのには慣れた。変な縄に巻きつけられる…べたついて取れないし心なしか服の中を弄ってくる感じ。

障壁の大きさは子供二人が入るギリギリの球体。

加速し始めると正面から猛獣にぶつかる。岩なんて目と鼻の先まで。ぶつかるって！

…ここから先は覚えていない。

——————

初めから転移したり空を飛ぶてもあったことに後で気付くカラバ。面白ければそれでよし！

本気を出せばモブの一群なんぞ指一本で殲滅出来るのだが…
本気は滅多に出しません!!

リミッターの演出が必要だったと後で気づく作者（汗！

エヴァに遭遇　く行動を共に。　（後書き）

次回くエヴァと別れる。世界樹に細工する。いざ魔法世界へ！

…そんな感じ。

マホラなう！　　く霊地強奪（前書き）

Rー15になるのか？

オリ主はそれ程悪人ではないはずだが。

麻帆良を先回りして確保するストーリーも多いが、これほど最低な展開は無い：はず。

マホラなう！　　く霊地強奪

○追加設定…麻帆良とは？

既に地名と大樹は存在する。目立つ程度には大きい程度。

神道的に、既に神社か祠が有りそうだが。

○竜脈（霊脈）／シンボル（世界樹）／霊地の関係…

竜脈というぶっといパイプから少しずつ漏れた「パウワウ！」を偶然吸い上げた木が比較的大きく育ち、世界樹と呼ばれる。以前の木とは品種自体変わっている。溜めこんだ魔力が周囲に魔力場を形成。魔力場の出力強度は離れるほど弱くなる。有効範囲内で自然発生した効果を「世界樹の加護」といい、周囲に他に大きな木がないのは、魔法使いによる伐採ではなくフィットンチツド的な何か。寛容になれ（笑）。

竜脈から世界樹に渡らなかった分と世界樹から落ちた葉や実に残留する魔力が土地その物に染み着いた…これを霊地とす。

竜脈はどこからくるの？…うゝむ。

○世界樹とカラバの関係…

「…ふう。世界樹はワシが育てた！」

○世界樹の加護…

寛容性を大幅に育む。「変な人が居ても・少々おかしい事が起きても気にしてはいけません。笑って許しましょう。」

カリカリしても牛乳要らず（笑）

一一一一一一一一

麻帆良と世界樹はすでに存在した。想像よりちんまいとか、神道の管理下に置かれているとかというのは些細な問題だ。本来、大樹や巨岩って神道の聖域だよね常考…。神道——く呪術師！？
ちなみに陰陽師は道教だったか？

え？エヴァはどうしたかって？ははは。ゲロ塗れ尿塗れの服を着替えさせて一緒に沐浴しようといひん剥いたら顔を蹴られて逃げられたよ。今は西の方に向かってる様だ。幾つか極小サイズの魔道具を仕込んだからね。危なくなったら銀河の果てからでも飛んで行くつもりさ。僕との魔力ラインを構築しているから障壁のバックアップや遠隔操作も可能さ（この時歯が輝く）。

☆麻帆良強奪開始！

此処から10km先に後の世界樹が有る。木の柵に囲われ、縄的な飾りが付いている。

おや？周囲に居るのは巫女さんか？男の気配は無し…凄いぞ御都合主義！

イザイザ！只今奪わん！〔4倍角〕「…ふんはっ！ふんはっ！…アッアオーン！」

☆カラバ…正常　——＜　暴走　；髪の色が緑系に戻る　；太い尻尾が生える

接近して拘束の準備を始める。

S I D E…巫女

距離100m

…そこには変態が居た。八百の中には好色な神もいると聞く。一見異国のあどけない子供。目はギラついて、口からは涎が止まらない。息も荒くケダモノの様。下腹部の辺りから棍棒が覗いている。

きっとそう。異国の邪神が襲撃をかけてきた！

————————

『カラバは　てきにそうぐうした!!』

『巫女A　が　あらわれた!』

『巫女B　が　あらわれた!』

『巫女C が あらわれた!』
『巫女D が あらわれた!』
『カラバ の せんせいこうげき!』
『カラバ の ソフトーバインド!』

興奮状態なので狙いが定まらない。2人はずす。

『巫女A は もがいている!』
『巫女A の おっぱい が きょうちようされている!』
『巫女B は てんとうした!』
『巫女C は かいひ に せいこうした!』
『巫女C は とうそう に せいこうした!』
『巫女D は もがいている!』
『巫女D の ふくがぬげた!』
『巫女D の とうそう!…にげられない!』

かなりエロエロになっている

『カラバ の ヒートアップ!』
『カラバ の ソフトーブリット!』
『巫女B は へんなえきたいまみれ になった!』
『巫女B は じめんに はりつけ になっている!』
『巫女B は もうどく をうけた!』
『カラバ は とても コウフンしている!』
『カラバ は なにか を ばらまいた!』

巫女、s…今がチャンス!!

『『巫女ABD は とうそう に せいこうした!』』

☆麻帆良の制圧強奪に成功した。
☆カラバは正気に戻った。

……ふんはっ！ふんはっ！……うつ……ふう。

まだ幼い世界樹に莫大な魔力と神力を注ぎ込む。…掌からだぞ！
なんと！世界樹が更に大きくなった！

世界樹にエヴァ同様の処理を施した。

さて、魔法世界にも世界樹があるか確認しなければ。

ゲートは イギリスとトルコのどちらにするか。…どの道強行突破。

☆麻帆良の世界樹に「楔」を打ち込んだ

————

○カラバの変身能力と髪の色..

変身能力そのものは「尻尾」「ミミ」等を生やす程度。

暴走するとささやかな変身が解除され地がでる！

マホラなう！　　く霊地強奪（後書き）

これ以降、件の勢力が狙いに来る。どこから嗅ぎつけたんだか？
楔を打ち込んだので、異変が有れば察知可能。むしろめんどいので
管理してもらう。世界樹（の人格的な何か）はカラバにメロメロな
ので、世界樹自体がメガロに「NTR」されることは無い（笑）。

外伝1 く未来からの漂流物（前書き）

主人公は科学にも触手を伸ばします。

外伝1 未来からの漂流物

今回は未来の為の伏線。主人公の知識の時代は現代レベル。アカシックレコードにリンクすることも可能であるものの、負担が大き過ぎておいそれとは出来ない。

く麻帆良にてく

巫女さんたちを排除した後周囲に何か異常がないか各種スキャンを行った。他の転生者が既にトラップか何かを仕組んでいる可能性が有る。女神様いわく『自分の担当外の転生者は把握できません』とのこと。

魔力系探知…土地柄、周囲の魔力干渉が酷くてスキャン不可。

重力異常…僅かに重力が小さい。

金属探知…反応有り!!

調べようがない魔法系トラップは無いとみなす。重力が弱いということは空洞が有るということ、…地中に『す』でも入っているのだろうか。金属物を探す為念入りに、…そして見つけた。魔力で強化したスコップで掘る…

☆『怪しいトランク』『近未来なポッド』を発掘した。

まずトランクから…現代の感性として一見短期旅行用の鍵付きトランク…だがそれにしては頑丈すぎる。封が胡散臭すぎる。単語としては「学園都市」「航空宇宙」「20XX年」ぐらいは辛うじて読み取れた。全体の復元は不可能に見えるが何かの参考には成りそうだ。

☆『レムナント』をゲットした。

鍵を壊して抉じ開けると嚴重に梱包されたシリコンの塊が有った。少し削り採ってみる。魔法で眼の解像度を極限まで上げる：超精密な配線が有ることから恐らく超先端技術で製造された演算装置の欠片だと推測できる。

一方のポッドは未来的で丸みを帯びた円柱形の容器。鍵穴の代わりに端子を差す部分と如何にもなテンキー。蓋ごと切り落とす。中には「紙束1」「紙束2」と「紙束3」「スクラップ多数」が入っている。それぞれ技術論文、設計図、設計図十資料。紙面上端にあった日付の2030ー2040年代当時ですら最先端のもの。

☆『ラハムポル博士の資料』を入手。

☆『珪素生命体の設計図』を入手。

☆『PI社製システムーデカトンケイルの各種データー』を入手。

自分の力を割り振り分身を複数作成。まずは秘密拠点を確保する。危険を恐れず麻帆良にするか海中基地を建造するか…。本体以外は拠点運営とAI開発に充てたい。

結果報告…

☆「秘密基地建設」フラグがON

☆「デカトンケイルクローン開発プラン」が始動

☆「珪素生命体開発プラン」が始動

☆連動して「茶々丸超進化」フラグON

及び「思考戦車等超高度人工智能搭載兵器開発」フラグON

――――New Words!!

○デカトンケイル「攻殻機動隊より」

ポセイドンインダストリアル製のすごいスパコン。ハコと専用AI（OSの事か？）をセットでこう呼ぶ。これに比べたら「京KEI」なんて只のキッチンタイマー。

とは言えツリーダイアグラムほど無茶苦茶なことはしていない筈。語源は「ヘカトンケイル」

○珪素生命体「攻殻機動隊より」

既存のAIと異なり「生病老苦」をもった存在。「考える石」ではない。自身の経験を100パーセント受け継いだ「子^{ミーム}」を残す。永遠に成長し続けるAI（人類と区別できない双壁）。無制限に子^{コピー}を作られると現代のネットワークインフラですら直ぐにパンクするから開発が完了したら隔離するべきか。

○レムナント「とある魔術の禁書目録」

原型には興味なし。開発のヒントやノウハウを吸収することはできないか：

――――追記…秘密基地

「地下／海中基地」「空中要塞」は男のロマン。

太平洋のド真ん中or日本のEEZギリギリの地点で妄想中。
空中要塞は科学だと難しいから魔法世界にて調達したい。

海中基地には造船用のドック等も欲しかったり。動かない以上最後には放棄するかも。

最低限の構成…研究開発設備、ドック、造船設備、防衛システム。

外伝1 く未来からの漂流物（後書き）

本筋には影響のない外伝。

毎度稚拙な文ですが御精読ありがとうございます。

魔法世界侵攻編（前書き）

此処に伝説がまた一つ

魔法世界侵攻編

○とある記録

『旧世界麻帆良の地：吸血鬼を率いた緑の悪魔が吐き出した瘴気により彼の地は汚染された。そこは日が昇ることなく荒れ果て…そこを救ったのが後のコノエ一族であった。』

　　＼MM元老院推薦絵本「悪魔の記録（旧世界編）」本文より
『…結論として、彼はとても悪戯好きで、幼くして死んだ嬰兒の亡霊なのではないか？幾つかの歴史書（巻末リストヲ参照セヨ）では好色な神の一柱や悪魔だともされるが、行為は余りにも子供じみており…一部地域での安産・子宝祈願の像、その原型は彼や彼のそれであると目されており…』

　　＼アリアドネーのとある蔵書より＼

――――

トルコのゲートを強行突破することにした。今度は空路で。

　　人気の多いところの上を突っ切るため、姿を周囲に溶かす。^{クローキング}女神様^{ナビ}に詳細な方位・距離を聞き「私はカーナビではありません！」、脳内地図に三次元座標をインプット。リアルタイム超高精度測量術式・超高精度誤差検知術式を構築。INS誘導によりイスタンブールを目指す。前回同様山脈を削り…路が出来た。

　　何度か誤差を修正し、ついにイスタンブールの地に降り立^{着弾し}った。

　　周囲の魔力をスキャンし、ゲートを探す。弱い反応が多数ならば魔法使いの群れ、大きな少数の反応ならばゲートの『要石』か何かであろう。前者無し！後者を一個発見！ゲートポータル敷地までのパスを解析する。そして突貫！

今はまだ約16世紀。魔法使い達が生き辛かった時代。

風景が変わる。荒れ地からミルクの様に濃密な霧のたちこめる林。結界に突入した！

脳内にアラームが鳴り響く。

濃霧という視界効果と巧妙に配置された樹木が迷宮を再現している。

…問題ない。

網目のように強力なトラップが配置されている。結界外への強制排除は生温い、後に魔法世界で問題になる魔法地雷（即死の概念攻撃・永久石化・魂の強制剥離・正体不明の無数の呪詛・etc）特定のアイテムを装備すれば突破できるほど甘くは無かった…常人ならば。

ゴールまでのパスは解析できたが尽くトラップが邪魔だ…。即死トラップを食らったら普通に終わる。復活できるけどさ！その頃には普通に文明が終わってるし！。石化はキャンセル可能だ。残りはイミフすぎる！変な病気とかもらいそう。

「アルテミス！」 「薙ぎ払え！」

魔砲を連発し、横薙ぎにビームを放つ。進路上のトラップは一個ずつ確実に破壊して進む。

…他人はどうやって踏破しているのだから…

なんとか建造物まで到着した。

ゲートポートに進入。無茶苦茶広くて立体的で……人影がない。空調は稼働していると言うのに空気が淀んでいる……減多に利用者が居ないのだろう。受付もサボっているのか空だ。

壁際の魔法端末から運用システムにアクセスし屋内のマップを展開。先程の結界は兎も角、異様に広いのは気のせいかな？

制御システムに管理権限でハッキングをかける……

099	(単位：%)				
[成功確率：000]			+099		[成功確率：000]

「ゲーム的にはこんな感じ。主人公の悪戯系イベントの成功率は半端ない。」

ハッキングに成功し、警備状況の確認……。ポートは殆ど無人で稼働している様だ。勤務中はたったの数名。受付嬢っぽいのと警備主任か？…カメラで確認。休憩室で楽しんでいるようだ。荒い映像だねなのに嬌声と肉の弾ける音が聞こえてきそうだ…。いらっ＃

ド派手な挨拶（襲撃）を行おうにも興が削がれた！！転移ゲートまでの移動パスを算出……完了！

自律兵器が満載のハンガーを発見！ A隊とB隊に分け立体的で力
オスな空間の東西両端に配置させる。IFFを操作しAB隊双方を
敵と認識させる。

A隊..軽快な武装警備兵器、数が多い

B隊…鈍重だが攻防、火力の性能がずば抜けている多脚戦車

うむ。カラフルで接戦でコッテリして素晴らしい弾幕でした。ごちそうさん。A隊のピクミンを彷彿させる包囲攻撃：口当たりの良い高くて軽めの音。B隊のガトリングX2と主砲：脂っぽくてぴりりと辛く、低い音で離れていても腹に重く響く。AがBを翻弄しBが仕返しとばかりに魔法機銃の雨霰！

警報やセンサーに介入しまくり武装集団の大攻勢を演出。自分の移動に差し支えない部分を除き全隔壁強制閉鎖！一定時間他の端末からの入力をロック！

警報が鳴り響き慌てて服を着た男女が泡を喰って隔壁を叩いている。

クケケ：ざまあWWWW

転移装置に移動し悠々と去る：筈だった。衝撃で脳を揺さぶられる。ウエエ…

コンソール…「要石に重度の破損！緊急停止まで後…」

…銃撃戦の煽りで要石は破損していた！

—————

この施設色々とおかし過ぎる！！

近現代になるまで魔法使いですら向こうの世界を滅多に知らないという設定。作中では魔法世界側では一世紀？前におとぎ話扱いの旧世界を「発見」した訳だし。実際それまでは物凄い閑職なのでは？という妄想。

魔法世界侵攻編（後書き）

次から魔法世界編（古代）スタート！！

魔法世界巡り1（前書き）

リアルでは現実逃避中…

魔法世界巡り1

そんなこんなで魔法世界に降り立った。

渓谷と言ったわけ？眼の前には大地の割れ目が広がっている。視界は荒野ばかりで人気がない。

此処は何処？

「女神様、地め『カーナビ扱いはもう嫌です！』…」
ふう、仕方ない。

耐精神汚染に特化した防壁を最大に展開しアカシックレコードへのリンクを試みる。リンク確立。膨大に流れ込む情報をカット…大まかな地名と大体の位置関係を手。[防壁の半分が喰い破られる…]「魔法世界の概要を手。……ギリギリのところでリンク切断。

此処は「ケルベラス渓谷」。近くの「グラニクス」は「闘技場」で有名だ。南にいれば「アリアドネー」…中立勢力の教育研究機関の集合体だ。さらに南。「ヘラス帝国」が有る。

ヘラスから離れて北西「ニヤンドマ」と「オスティア」…ラピュタかアルビオンかよ。この辺りは帝国と連合の競合地域…西進して「グレートブリッジ」と通過し、「メガロメセンブリア」…この世界その物の首都らしい。後連合の盟主。残りは「ノクティスラビリンス」「テンペテルラ」北一帯に「竜山山脈」がある。

まずは「渓谷の調査を行おう。」

— — — — —

ケルベラス溪谷を見降ろす。暗くて深くて底が見えない。魔力スキャンを行うと濃密な魔術行使阻害のフィールドが形成されているため不明。

此処は魔法が使えなくなることと有名な場所であった。底には魔獣の群れが居た筈：

上から打ち込む魔砲ですらかき消えるのでは？

周囲の土砂から大きな容器を錬金し大量の爆薬：TNTにするか：いや。

気化燃料爆弾に変更する。

詳細は省略。これを無数に造って落とす！

地面に接触した瞬間信管が作動し容器内の爆薬が爆ぜ燃料が沸騰する。異常な内圧を保ちつつ容器についた弁が開く。気化したガスが吹き荒れ着火装置が火を散らし引火した！！

轟音。谷底から爆風が吹きあがり歪な雲が舞い上がる：やり過ぎたか。

――――

神の力を振るい谷底まで降りる。殆どの魔獣は蒸し焼きになっていた。耐魔には優れていても対物・耐爆性はそれほどではなかったらしい。魔獣以外のこまごました物は爆風で粉々に吹き飛んだか？

ふと、近くに円柱が覗いている事に気付く。如何にも怪しく、地下に続くハッチに見える。

突貫するか？

— — — — —

ハッチを破り、床面に着地。深く積もった埃が舞う。いわゆる悪の研究所的な感じ。件のフィールドの手掛かりは奥にあるのか？暗くて見えない。

僕の体はアレだから空気がなくとも割かし持つ方だ。ぽつぽつとゆっくりと照明が通路を照らす。どこかで空調の音がする。奥に進む…広い空間に出た。

半球体の部屋、床から天井まで伸びる巨大な魔方陣が揺らめき妖しく光っている。球面全体がモニターになっており、ウィンドウが展開する。翻訳と理解を同時並行で行う：

データベースにアクセスし暗号化されていないデータを参照する。例のフィールドは『AMF』と呼ばれ、自身から放出するタイプの魔法行使を妨害・減衰するものらしい。上の魔獣たちはこれに適応した野獣の様だ。

他には特になかった。作業員が長居するような施設ではない様だ。

魔方陣を暫らく停止させ、施設を発つ。…次は南に行こう。

— — — — —

「なー君また遊ぼうね！」

「なう！」

「なー坊もう行っちゃうのかい。寂しいわねー」

「なー！」

「おや。慰めてくれるのかい？」

「な…な…う！」

緑の太い尻尾と耳を生やし亜人の子に偽装する。念入りに、これなら探查系の魔法でも誤魔化し、深刻なダメージを受けても解けないはず？

森の中をのんびり進むと集落にぶつかる。子供と仲良くなり家に招かれ料理をご馳走になる。簡単な防御魔法を教える：魔法が使えない人や子供の為に簡易な図形を木片か何かに刻んだもので魔法障壁を展開出来る優れ物だ。術式の原型はマンダラシールドの一枚、元が元だから防御性能が半端ない。ついでにAMFを元に類似の効果も付けた。攻撃魔法は反撃専用だが自動作動かつ一撃で相手を無力化するものを。

金属板に図形を刻み、緑の服に縫い付け、更に適当な模様を付ける：『類似の概念から得られる効果』を用い、自分から魔力を流し込むラインを構築して板や刺繍の効果を発動・強化できる。

子供がこれを着ることで危険な世界を比較的安全に旅することができる。

図形にもレパートリーを用意し、消毒・回復・薬草の判別・照明等と言った無数のレシピのうちのどれかを教える。これは板に刻み込んだ後内側に折り込み、魔法で外から見えないようにする。これらは魔力を注ぎ込むことで作動させる。木製は非常に安価で子供1人でも製造可能だが使い捨て。金属製は何度でも使用可能。良い素材を使うほど板に溜めこむ魔力が増え一度に使える回数が増える。

いくつもの集落に伝えて回り、亜人のお守りとして飛ぶように売れた。

世界は少し平和になった。

――――

道を間違えたのに気付かず薄暗い密林を彷徨う。

ある日触手的な生物に遭遇。触手で少女を如何に優しく食^{性的に}べるかで話が盛り上がった。

――――その頃地球――――

海上…太平洋の日本付近。穏やかな海面にギラつく日光が少ししか届かない海中にて分身たちが喫水下秘密施設を構築中…

エヴァ…「奴はどこに行ったのだ？まあいいか。」

――――New words！

『AMF』…ある転生者が持ち込んだリリな世界の兵器？

『類似の概念から得られる効果』…イメージは「とある魔術の禁書目録」より。神や天使に自身を当てはめた。

魔法世界巡り1（後書き）

次回もお楽しみに…

まどろみの中で：　　く思索とカコバナ（前書き）

カコバナにて外道表現有り。注意。

まどろみの中で：　　思索とカコバナ

スコールの様に激しい雨が大地を打っていた。

僕は洞窟で雨宿りする間、物思いにふけていた：眠たいの。

○術の同時行使とは？

最近、無理を感じている。思考の速度が遅すぎるのだ。

マルチタスク

カオスシンキング

並列思考・分割思考・混沌思考 e t c . . . と、様々な手段があり、これらは如何に思考を高速化させるか先人達が苦心したものである。

複数の思考を同時に行うのがいかに難しいか。適当な歌を口ずさみつつ字を書くことは容易である。ペン回しが出来た人ならば考え事と同時に出来るであろう。逆に、フリーエ変換の解を求めつつ将棋は指せるか？一つ一つのタスクが無意識的に行える前者は同時に行えるものの、後者の様に数値計算やボードゲームでの有界な未来予測といったものは片方ですらめんどくさい。人間は抽象的なことが得意であり、コンピューターは数值的に扱うことを得意とし、それぞれ数値計算、思考と呼ぶ。思考には人格に準じたものが必要である。なお、ペン回しは複雑なサーボ処理であるが機械より人間の方が得意であるから、思考に属する。

幾つかの高速な思考手段

- 1) 単一の人格上で複数の数値計算を並列処理する
- 2) 人格ごと複数に切り分けて同時に思考を行う
- 3) 1) , 2) のハイブリッド

人格の複製や分裂といったものはこれ自体が重い。記憶の隅に埋もれていたワードが浮上する。1は「なのは」2と3は「メルブラ」

「デモベ」…これらは何を指す名詞か覚えていない…。「照準」やそれに必要な「迎撃関数」の構築・計算、といったものは数値計算に属する。―浮遊砲台による遠隔攻撃《ビット兵器》はペン回し同様の思考である。新しい術式の考案は曖昧な部分が多い為思考に属する。

魔道書や根源へのチャネリングと言った精神を汚染する可能性が高いものは安全に人格ごと凍結／隔離・破棄する必要がある。

僕としては3を選ぶしかないか。ナチュラルに17分割できるような頭では無い…あれ？

それともう一つ。

全て自身の頭の上で考える必要はない！可能ならば自分以外の何かに思考を委託したい。以前見つけたアレは進展しているだろうか…

70

○僕はどこから来たのか 僕は何者か 僕はどこへ行くのか…

前に居たのはゼロ魔の世界だったか…長い寄り道をした？

…ゼロ魔ってなんだっけ？…本か何かだと思ふのだが…この単語をどうやって仕入れたのか記憶がない…自分の最初の姿はなんだったけ…人間だった筈なんだけど…記憶がおかしい…女神様に消された…のか？…どこへ…向かうかは分からない…楽しく…というより楽に生きたいものだね…

— — — — —

雨音を子守唄にして温い毛皮の中、自分はうとうと眠っていたらしい。気が付けば日が差している。放浪をつづけよう…

おや？毛むくじゃらな君は誰だい？　…オウフ！

—————その頃海中———

順調に秘密基地を建造中。カラバとしてのリソースの大半はこちらに割り当てられている。無尽蔵な魔力と錬金による物質の直接的な原子変換により、材料調達がとても楽だ。資材の搬入口と幾つかの部屋は出来ており、研究も開始してから順調に進んでいる。アレに関しては当分は魔法ベースでの開発・実装になる。いつかは順次科学側に移行していきたい。

その魔道計算機…今は電卓並みだ。

最終的には大規模なスパコンを再現し、AI…もとい電子精霊も構築したい

—————カコバナ———

とある世界。とある時代。

ヒトはいるものの人気のない工場。整然と並ぶ液槽は薄暗い光源のせいでよく見えない。

通路を歩く二人の人影。足元の鉄板がカツカツ鳴る。

男…ドクターは空中投影型ディスプレイを開いて横の女性に見せる。

「…ん？可能だよ。データベースに無数の人間から抽出した記憶のコピーのうち幾つか該当する。これらを1個体に植え付ける。その記憶は時間と共に統合されていき、様々な矛盾を抱える。商品自体の精神保護の観点からあまりよろしくない。大抵直ぐに壊れて廃棄されるだろうしね。」

女は研究者と学校の先生を足して二で割ったような印象を受ける。
タイトで黒い服が映える妙齡の女：薄暗い背景で台無しだ。

「…此処にあるのは記憶にオプションを設定している区画だよ。予め特定の記憶をてんこ盛りに：そう、例えば虐待されて愛に飢えた記憶だね。記憶を適当に弄くことで性格に方向性を持たせるとか、特定の何かに病的なまでの執着を持たせたり。よく売れているのはアダルトプレイ用の素体さ。演技と違って『モノホン』の感情と動きだからね。深窓で高潔な処女を誘拐せず合法に楽しめる。ハードなプレイもできる。首を締めすぎたりしてうっかり殺してしまっても問題ない。たもったいないがね。年齢オプションを付ければ生長促進剤を使って：知ってるかい？『助長』という故事成語は本来成長促進の意味合いらしい：関係ないね。金持ちのクライアントによく売れているよ。出荷直前に外部から衣装やメイク担当のスタッフを呼んで：」

「話が脱線しています！」

「すまない。女性のキミにはきつい話だったね。そっちは通称『聖人過程』と言って：おい。走るんじゃない！滑って機材を壊さないでくれよ。」

「そのプロセスでは強力な回復能力、精神の異常なまでの高耐久性：つまりとっても気の長い性格の個体を製造する。加えて松果体の異常な肥大：私のクライアントではないから仔細は知らないが彼らはミュータントでも作るのかね？というものさ。」

女は話題にかなり喰いついている様子だ。

「そうそう。あれなんてどうだい？ある段階で生体脳を取り出し、予め育てておいた人工知能と融合させる。1歳相当で研究所に出荷

されるらしいね。最終的にシリコン基盤に宿る魂を完全にプログラムとして落とすことは出来るだろうか。…てな感じさ」

「興味を持ってくれて助かるよ。さあ！話を詰めようか！」

『魂の研究』でここに訪れたのはキミが初めてだよ。

…ここはまさしく人間工場であった。

まどろみの中で… 〽思索とカコバナ（後書き）

もうチョイしたらタイトルを少し削る予定。

魔法世界巡り2（前書き）

斬新な原作ブレイク！

次回ヒロイン出現予定！

魔法世界巡り2

――――はじめてのしろぼし

「お前転生者だろ？そこのお前だ！」

喧騒から離れたところで変な男に呼び止められた。男はヘルメツトに黒い重鎧：

全体が何か黒いモヤモヤで蔽われている。兜には馬の尻尾みたいな飾り。

「これはね……と言う魔術礼装さ。かなりの抗魔力を持っているから生半可な攻撃は通じん。」

「説明サンクス。」

「ガキ転生者だろ。にしてはショボイなりだが？」

「判で押したような外見の奴には言われたくない。まあ、場所を選んでくれただけまともな部類か。」

男は黒塗りの大剣を生成させる。ツヴァイハンダークロスケめ：

僕はこれを合図と見なし杖を出す。

ブリットを数発速射する…トン、テン、カンツと赤熱した石片は全ていなされた。

火礫を落としきるとクロスケが剣を構えて突きの態勢に入る。

「ヘヴィースラスト！」

突きを問題なく弾いた。魔法障壁の表層が火花を散らす。クロスケがモゴモゴ…と呪文を唱えると大剣は紫電を纏う。

「カミナリスラッシュ！」

これで壊れるほどヤワな障壁ではないが不可視の障壁があちこちか吹き出る火花で暴露している。

早くけりをつけねば。初めて使う魔法はフルで詠唱が要る。

「プラクテ ピギナ …フリージェランス エグザウマーティオ！」

氷系の武装解除。だが効果は無かった。クロスケの大剣に罅が入った。続けた。

『念力』一く『超加速』RE DY… RUN!

『鍊金』一く『ウランロッド』RE DY… RUN!

鍊金で長い円錐を形成し、目的の物質に転換する。材質はウラン合金。重くて硬いので真っ先に思いついた。着弾時に滑らない様に先端を潰す。超加速でロッドは一条の光になった。

クロスケは罅入りの大剣を大上段に振り被り…

3. 0 [km/sec]で撃ち出されたウランのロッドが鎧に食い込む！後出しに近い僅差で鎧をモヤモヤ破壊する。

一瞬で高温になりクロスケの背中から円錐状にウランの微粒子が飛散し激しく燃える。轟音。同時に衝撃波と大剣の欠片が障壁群を大破させる…

クロスケは蹴散らせたものの周囲は放射性物質で汚染されている…
さて、除染するか。

――――ブリーフィング

「…以上です。今後の予定は決まりましたか？」

「うん。決まったよ。他の転生者に注意しつつしばらくは旅を続けたい。かなり先だけど大分裂戦争だっけ？『結構派手ですから新旧両世界で気付きますよ。』…どちらの勢力にも付かないさ。横からボードごとひっくり返してやるよ。」

「貴方自身に自覚は無いようですが、貴方の力は単純なスペック上で既にこの世界の全生物（一部転生者除く）最強です。力の振るい方に注意が足りません！その力でもって貴方は何を求めますか？」

――――

地球時間との同期がとれていないことは知っていた。『原作』基準で旧世界四百年分…魔法世界的にはその4－6倍とすると今は新世界的に約2千年前か…造物主とやらに会ってみたいなあ

in アリアドネー

（曇り、普通）

鬱葱とした森から抜ける。纏わりつく羽虫がうつとうしい。

そこはこぢんまりとした幾つかの建物しかなかった。実のところ奇人変人たちが人の居ない森深くに庵を建てて私塾を建てたのが発端である。

なにせ人付き合いのヘタな連中だから、何処かの勢力と仲良くすることは無く。後に大きくなると連合・帝国の双方が集って来る訳だが今更どちらにつくこともできず。

こうして人が増え続け、行商の隊列が訪れ商店街・問屋もできる。無数のバラックは整然とした町並みになる。いつの間にか中立勢力の研究都市が築かれるのだ。

a t 中央広場噴水（予定地）

現アリアドネー郊外。超直感というか未来からの干渉と言うか：いずれこの地点が都市の中心になるという啓示を得た！

一面に土しかないが、今のうちに名を残しておきたい。

大地を均し固める。イメージを展開させ脳内の図面に書き起こす。周辺の地形から「水理」（≠水利）を掌握する。基本、噴水その物は魔法による動力で雨水を利用。この水源から流出する水量、降雨量、外部から流れ込む水量。生活の基盤となる水路。氾濫時の濁流を誘導するための構成。

そして魔術水路の敷設を行う。これは自然を動力源にした魔方陣だ。オーソドックスながら簡単な「繁栄の祈禱」をイメージしたものをあしらう。同時に、周囲の魔力が絶妙に循環する様にした。茶目っ気を出して気付かれないように敷設するがだれか気付いてくれるだろうか？

そして噴水。緑色を帯びた大理石で構成する。噴水にちよつとしたギミック。：びっくり噴水が完成し、中央に自分を模った白金の像。御影石の土台に刻む、「カラバ・セレスタン・ル・サリーナス（この地に土台を敷いた者也）」：よしっと！

最後に成果物に強力な固定呪文を重ねがけする。

全体で一週間だったかな？その間気の良いお姉さんの家に泊めてもらった。お礼として暇な時に溜めこんだ魔石を幾つか渡すととても喜んでくれた。ずっといいのよと言われたがやんわりと断る。

こうして僕はアリアドネーを発った：

○魔石Ⅱ余った魔力の結晶体

i n ヘラス帝国

(晴れた昼前。少々暑い)

『そこなネーチャン！安いよ！』

『こら！ぼうと突っ立ってんじゃねえ！』

『あなた。泥棒猫はほっというて私と行きましようよ。』

……

…

ザワザワする雑踏の中で足を進める。喧騒に耳も慣れてきた。道が狭い…この時代はまだ人数その物は少ないのだろう。皆亜人と言いか純粹なヒューマンはいない。僕も耳と太い尻尾は継続して付けているので目立たないと思う。

頭を左右に振り、露店を見て回る。ワクワクが止まらない。ビタンビタンと尻尾を石畳の上にぶつかって鳴る。

ある店でビー玉の様な飴玉に釘づけになる。紫と緑のを5つずつ買う。歪な銅銭をおっちゃんに手渡す。「…ああ。それもちよいだい。」白地に緑縞が映える陶製の器も買った。銀貨も渡す。

「おっちゃん！これとこれとこれ　ちようだーい」

「坊っちゃん太っ腹だなあ！サービスしてやる！」

紅い飴玉ももらった。器に入れてまとめてナップザックに入れる。

何か冷たいものを飲みたい。空き地の長椅子替わりの石に腰かける。冷えた石が心地いい。すぐ近くでジュースを売る屋台がある。

「売り子のねえちゃん。林檎ジュース下さいな！」

「はい！うふふ。かわいい」

猫耳少女からジュースを受け取る。

◎転生者センサーに感有り！！！！

人気のないところに急ごう…敵転生者を蹴散らさねば。

遠くに世界樹が見える。宿も取っておきたい。

――――世界樹前

…そして夜、宿からこっそり抜け出す。

人の気配が無い事を確認する。恥ずかしいからではなく都合が悪
いから。いつの間にか羞恥心がなくなっている事に気付く。

荷物を下ろしポンチョを畳む。涼しい風が心地よい。残りの服も
畳んだ。

鞆から液体の詰まった小瓶を取り出す。触手生物から貰ったもの
で魔力を与え続ける間、独特の液を生産できる。一部の物質を溶か
すこともあるが木綿は問題ない。

ヌルヌルペタペタ、不思議な匂いがする。頭がポーツ…とする。
また適度に温かい液体で魔力を通しやすい性質を持つらしい。固い

物同士をくっ付けると必ず隙間が出来る。空気より魔力伝導性の高い液体で隙間を埋めることで次の作業の効率を上げる。

木の幹にべた付く白い肌を重ねる。魔力ベースの精神交感（＝念話的なもの）を開始：幹が凹み僕を”母が幼子を抱きしめるように”受け入れる：いや、魔力電池として取り込む気か。

この世界では世界樹に蓄積されている魔力は未来ほど濃くは無い。魔法世界の世界樹はこれから吸って吸いまくって成長する段階である。空気中の魔力粒子は既に地球よりは高い：「魔法」世界だからな。未来、世界間の移動が活発になれば向こう側への流出が問題になるだろう。

塗り込んだ液体を門として、互いに魔力を押し込め合う。魔力の強い方が門を突破する。この魔力には命令の術式が込められている為、負けた瞬間言いなりだ。拮抗はあれど一瞬でけりがつく。世界樹は魔法世界側の各世界樹を相互にリンクさせ、その総体。僕は予め分身達から消滅寸前までこの体に引き上げている。僕の魔力容量及び瞬間放出量はバグチーですから！

僕の圧倒的勝利だった！

麻帆良の世界樹にした様に楔を打ち込む。

今頃エヴァは何をしているか：

未だ外は暗い。魔法でぬるま湯を出し体を洗う。

急いで宿屋に戻ろう。僕は気付かなかった：とある女性に一部始終見られていたことを。

i n オスティア

ウェスペルタティア王国。遂に後の連合圏にまでやってきた。

ここは後の「千塔の都オスティア」。「空中王都オスティア」原作頃には『廃都オスティア』にクラスチェンジするんだけどね。今は只の浮遊島群でしかない。

巨大な島が有り、その周辺を細々とした島が囲っている。僕だったらこれに魔道砲を固定して浮遊砲台にするね。

手頃な浮遊島に登って調べる。スキャンすると岩石に自然発生した浮遊魔法が残留することで浮いているようだ。同時に島を構成する岩石は均質である。ここ重要！

降りて地上から観察する。質量そのものは大きいので特に風に流されるということは無いのか。

もし島の岩盤を割って落とせばどの辺りに落ちるか…

オスティアのきっかり中央に立つ。自身の周囲に莫大な魔力を溜め始める…

衆人が集まって集中が乱れそうだ…

瞬間最大出力で魔力を噴出・圧縮をくり返す。ここが限界だ。

「ドーン」

強烈な震脚を叩きつけ岩盤に干渉する。ご存じだろうか？板の中心に力を加えて割るとき、均質でない物体（例…木板）は繊維方向に沿って割ける。均質な物体ならば綺麗に3等分に割れるのだ。

この日オスティアは壊滅した

ゆっくりと三等分に分かれていくオスティア

ゆっくりとそのまま墜ちていくオスティア

ああ。さらばオスティアまた逢う日まで…

墜落による負傷者・死者はゼロ。

当然、国墮しの危険人物としてヒューマンサイドではデッドオアアライブの賞金がかかる。

本来ここで何か重大なイベントがあったような…

??? 「妾の家が…殺してやる殺してやる殺して…」

女…「待つんじゃ」。妾を無視するな」

変な女に追われている。＜続く！＞

—————エロエロ BAD END If

昼と夜がくり返すように。月と太陽が入れ替わるように…
延々と交合とまどろみをくり返す。

世界樹と繋がった時、僕は世界樹に押し負けた。

褐色の肌、緑の髪で肉感的な美女に脱がされ組み敷かれる、舌と

舌を絡ませ、唾液の一切を絞り取られる感覚。ドロリとした蜜を浴び下半身を優しくつつまれ、激しく搾り取られる：視界が点滅し、暗転する。互いに荒い息をはきながら添い寝し、胸と果実の匂いに埋もれる。起きたらまたまぐわり合う。

夢と気付いた時には遅すぎた。一番順当な魔力の受け渡しとは術式のみを介したものだ。これが最も安全だが効率が悪い。次に皮膚同士での接触：効率が少し上がり、まだ安全な手段。

体液を使う辺りで危険性が跳ね上がる。唾液や精液を介するあたりで少々死ぬ可能性が出てくる。魔力が枯渇すると生命力その物を変換して対処するため、命が尽きるまで出しつくす可能性がある。普通は気絶などで防ぐものの、時に精神を掌握されていると気絶等が出来ない場合もある。

自分は高粘度の培養液　―蜜―　で満たされた樹内部の狭い空間に浮いている事を知る。

体液の出が悪くなってくると、強制餌育が始まった。もはや只の魔力タンクとしか見なされていない：管が口に固定され植物性の流動食が口に詰め込まれる。少し溜まったら即吸い取られる。

更には血液から直接魔力を取るべく何本もの細い管が太い血管を狙って刺さる、吸うだけではミイラ化するので魔力をすったら血液替わりの汁を等量流し込んでくる。

一つだけ幸いだっただのは、魂そのものは拘束されなかったことか？もうすでに魂は碎け散り、散逸した後の事。肉体は永久魔法機関として世界樹の一部として内包された。彼の魔力生産量は未来にお

けるゲートからの流出量より大きい。魔法世界存続の条件が変わり、

女神様…「良かったじゃないですか。精霊：一応女の子と死ぬま
でエッチ出来たんですよ（笑）。それに魔法世界の魔力枯渇問題も
クリアしそうですし世界を救いましたよ。」

魔法世界巡り2（後書き）

メモ…主人公の装備他

無銘の杖

ナップザック

- ・世界樹の蜜

- ・ローパーの欠片

- ・魔力を込めた石

- ・飴などのその他アイテム

実質更新停止

ごめん。またなんだ。

昨年から忙しくなって更新中止してから時間が出来ていざ書こうとする自分につけた適当すぎる設定が足ひっぱって続きが書けません。

いざ続きを書き散らしてみるといきなり主人公が近未来化しかけたので世界観が瓦解しちゃって。

少ないとはいえ、駄文を読んくれた皆さん、御精読サンクス。

『珪素生命体』の近未来ネタは次に引っ張っていききたいのですが。

次回作は短編ものの連続…小ネタの詰め合わせと言うことで精進させていただきます。

以下おまけ

— — — — —
— — — — —
— — — — —

「なんで…！なんでママの石化が解けないのよ！？ネギにもらったこのアーティファクトならどんな異常も治せるのに…！…あんた！何か言いなさいよ！」

フッ。

「知っているかいお嬢ちゃん。バッドステータスを直す：特に『呪い』を解除するには特定のプロセスを経過する必要がある。さて、この呪文は悪魔謹製でね」

治すには『意識の固定化解除』『シリカから肉体（神経系を含む）の構造復元』の2ルートのプロセスを同時処理しなくちゃ解けないんだ。

でもね、意識を回復させるのは先に肉体——特に脳——を戻す必要がある、逆もまた然り。

Dead-Lock
こうなる様に仕組んでおいたのさ。：ハーハッハッハ！」

「なお、無理に解こうとすると、高速で呪いが変質するので注意したまえ。更に精霊が石化状態を『正常』と勘違いすると『治す』とは概念的に言えなくなるね。」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8068y/>

[ばぐちーオリ主転生モノ] ねぎてん！

2012年1月12日20時58分発行